

1. 長期成長ビジョン

化粧品で培ってきたブランド力を存分に発揮し、瞬間風速的な観光客増ではなく、
定着型/循環型の地域創生モデルを完成させる。

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

- 北海道砂川市を、「世界中の人々が訪れるまちへ」第2章！
- 人口1.6万人の街に、SHIROが「みんなの工場」を2023年4月に開設し、年間30万人が訪れる観光資源となった。
- その砂川市で「地域交流・観光・移住」のハブとなり得るホテルに再生し、前出の施設と合わせ観光客を「面」で受け止める。
- 地域交流→市内唯一の宴会場の改装と価値再定義、60席程度の大型レストラン、市内唯一の大型サウナ付き温浴施設の新規設置、生産者と消費者をつなぐ地域マルシェの展開。
- 観光→客室リノベーション、温浴施設によるホテル力強化、ホテル内にSHIROアウトレット店舗の実装による相互送客（みんなの工場↔ホテル）、高齢者向け賃貸施設との連携による家族集客。
- 移住→サービス付き高齢者向け住宅の新設

売上成長目標

- 2030年までに会社全体の売上高年平均成長率11%（2024年と比較して）
- 2030年までに会社全体の売上高増加額159億円（2024年と比較して）

外発的動機

- 砂川市は札幌市と旭川市のほぼ真ん中に位置しており、過去も今も「通過する街」と呼ばれてきた。その理由は泊まりたい宿泊施設と飲食店舗が少ないからだ。今回の補助事業の対象である砂川パークホテルは老朽化に伴い観光客からは敬遠されており、実態はほぼビジネスユースである。また北海道のホテルとしては致命的に「温浴施設」がないことが観光客の足を遠のけている。
- 日本にある多くの「サ高住」はマンションの焼き直しが多い。高齢者の中には地に足をつけてゆったりとした施設を望む可能性も高い。かつブランド力ある企業が行なうことで地域の垣根を越えられるのでは。

内発的動機

- SHIROは令和5年4月に同市内に「みんなの工場」を新設。そこでは化粧品製造工場、化粧品販売店、カフェ、子供の遊具施設、書籍漫画展示などの総合施設であり、昨年は1年間で30万人のSHIROファンが来場した。かつその内の25.1%は道外からの来場であり、その全国からの集客力があれば今回の補助事業の成功可能性は高いと考える。今はホテル機能が弱いため、砂川市へは「日帰り」の観光が主体となっているが、今回の改装をきっかけに、顧客に対して宿泊をセットにした滞在プランを提案することでSHIRO全体のプレゼンスが上昇すると考える。

1.長期成長ビジョン

今回のホテルリニューアル事業は、地域創生に向けた継続的な取り組みの一環であり、決して断片的な事業ではない。



市民とのワークショップの様様

「みんなのすながわプロジェクト」

生産量拡大を目的とするSHIROの新工場の建設をきっかけに、2021年6月発足。

“誰も排除しないまちづくり”を指針として、計16回にも及ぶワークショップや座談会を通し、市民をはじめとする参加いただいた皆様の声や想いを取り入れて反映させていった。

「砂川にホテルを」「パークホテルを再生してほしい」などの声からホテルの存在をより意識するように。

2.補助事業の概要

単なる老朽化の改善にとどまることなく、大規模な事業投資によりホテル機能としての付加価値を増幅させ、結果的に「生産性の向上」「雇用の促進」「賃金増加」を実現させる。

補助事業の 背景・目的

- 1986年に竣工したホテルであり、老朽化が著しいこと
- ホテルとしての再生（集客と収益）を果たす上で必要なコンテンツが足りていないこと

事業費 (補助額)

27億円
(7.8億円)

設備投資の 内容

- 北海道のホテルにおいてはマストな温浴施設の設置。
- 老朽化した客室や共用部分の改装
- レストランと宴会場の動線見直しによる労働生産性の向上
- 収益性の大幅改善につながるホテル内ショップの設置（SHIROアウトレット）
- 新たな価値により商圈外から集客を目指すサ高住の設置（人的リソースはホテル共用）



20名定員のサウナ完備温浴施設



採光を改善したホテルエントランス



現駐車場に設置するサ高住

目標値

項目	2027年度 (基準年度)	2030年度 (基準年度+3年後)
労働生産性 (単位：万円/人)	795	1,336 (年平均上昇率+18.9%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	463	575 (年平均上昇率+7.5%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	-	- (年平均上昇率 - %)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	23	70